

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	消防本部 消防課
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	消防・救急活動事業(No.52)
予算等事業名	火災予防活動経費		
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の初期消火・救助技能の向上(制度整備) ・民間事業所と連携した高齢者住宅防火指導の実施 ・違反防火対象物の公表制度の導入(制度整備・周知) 		
根拠法令・条例等	消防法		
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施 <input type="checkbox"/> 一部委託あり <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他		

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	現予算以上の削減は困難であり、今年度の出前講座等の事業実績を検証し事業費を見直す。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	出前講座等の事業の実施結果から、事業効果を検証し来年度以降はより効率的な実施を図る。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 対象事業は、昨年度策定の消防力の整備計画等に基づくものであり、進捗状況は、PDCAの“D”段階にあることから、計画に忠実に実施していく必要がある。	

総合評価

実績	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織訓練等において出前講座の実施 ・違反公表制度の導入(平成30年4月から実施) ・防火ポスターによる防火思想の啓発(町内児童567名応募) 		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	訪問介護士による防火診断回数等		
中期(29年度)目標値	10(上記防火診断回数)		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	78,035	66,159	
	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護士等が防火診断を行った実数。 ・自主防災事業及び違反公表制度事業等については、制度整備又は制度導入が指標となる。 		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		80	79	68	67		
財源内訳	一般財源	80	79	68	67		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 町民及び町内在勤者が事業対象となり、不特定におよぶ事業である。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 消防機関の専門性が求められ、町主体が原則であるが、外郭団体との協力は可能である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 町内在住者に対して防火思想の理解を促す必要がある。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 官民連携し、費用削減を図っている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 町民の防火意識は向上しており、消防力の整備実行計画の前期は30年度で終了し、31度から後期が実施されることで防火安全体制の強化が見込める。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	消防本部 消防課・消防署		
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり		
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	消防・救急活動事業(No.52)		
予算等事業名	消防職・団体教育推進事業				
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。				
内容	・消防職・団員教育計画の策定				
根拠法令・条例等					
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	先輩消防職団員による教育指導で実施しており経費計上がない。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	消防職団員の教育は、年間計画に基づき実施しており効率化は困難である。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 消防職団員の若年化で経験が不足していることから、継続的に事業を続け推進する必要がある。	

総合評価

実績	神奈川県消防学校で開催される初任教育、専科教育(火災調査科、救助科、救急救命士教育)に職員派遣を行った。また、救助資機材取扱い講習として、玉掛け、クレーン技能講習、ウインチ技能講習、酸欠・硫化水素作業主任技能講習に職員派遣を行った。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	受講者数				
中期(29年度)目標値	45			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	・消防職・団員が専科教育や研修を受講した人数。	
	14	17			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,272	714	1,552	606		
財源内訳	一般財源	1,272	714	1,552	606		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 県消防学校、メディカルコントロールなど関係機関で行われる教育は知識技術向上のため必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町消防職の専門知識・技術の習得は、町民生活の安全・安心のため必要である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 専門的な知識・技術を習得することで、災害対応力が向上している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 専門的な知識・技術習得した職員によるOJT教育とすることも可能であるが、教育内容により不可能である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 中間に評価と同様に消防職団員の若年化で経験が不足していることから、継続的に事業を続け推進する必要がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	消防本部 消防署		
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり		
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	消防・救急活動事業(No.52)		
予算等事業名	応急手当普及活動事業				
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。				
内容	・民間応急手当普及員の養成(周知・普及員養成)				
根拠法令・条例等	消防庁「応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」 「二宮町応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	消防職員により必要最小限の経費で実施している。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	民間応急手当普及員の養成計画が実現することで消防職員の負担が軽減する。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 本事業の推進により、より多くの救命講習修了者が育成され、安全・安心の町づくりを目指す上で一助となる事業ですが、民間応急手当普及員の養成に遅れが見られる。	

総合評価

実績	民間応急手当普及員養成の要綱作成実施(継続中)				
中間評価との相違点	計画の進捗に遅延が見られ、平成29年度に要綱(案)は作成したが事業推進での課題抽出がなされていない。				
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値					【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	要綱作成の段階のため目標値なし。 応急手当普及員の養成開始後は応急手当普及員数、応急手当講習会の開催数が指標。	
	0	0			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		201	183	198	186		
財源内訳	一般財源	201	183	198	186		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 実技に伴う物品や証書発行に対する必要な経費であり、事業推進には公費投入が妥当と考える。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 普及員養成は普通救命講習を担当し、応急手当指導員資格を有す消防署員が行うことが妥当と考	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	C
	【説明】 普及員養成に関する要綱(案)について課題抽出されておらず成果が上がる段階に至っていない。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 成果が上がる段階には至っていないため現時点では評価困難。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 普及事業は町民の安全安心に対して効果的な事業と思われる。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 要綱(案)や事業推進に対する課題抽出が必要。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 応急手当普及員の養成に関する要綱(案)に対し事業推進に係る課題等を抽出する。 応急手当普及員の養成を行い住民の応急手当に対する知識及び技術の向上を推進する。	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	消防本部 消防署					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	消防・救急活動事業(No.52)				
予算等事業名	緊急消防援助隊活動経費							
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害発生時に神奈川県隊として迅速に出動(要請に応じ、出動) ・消防受援計画の検証・修正 							
根拠法令・条例等	消防組織法・緊急消防援助隊に関する政令							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由	消防力の整備実行計画に定めたが規程策定が遅れている。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	消防職員による作業のため経費に反映されない。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	県の「緊急消防援助隊神奈川県後方支援要領」により実施が図られるものです。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 大規模地震災害等の発生が危惧されているなかで、合同訓練が行われるようになり、受援計画の作成は急務である。				

総合評価

実績	・二宮町緊急消防援助隊受援計画が整備された。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	随時				
中期(29年度)目標値	随時				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	0	0			
<ul style="list-style-type: none"> ・国内で発生した大規模災害等に際して、速やかに対応する。 ・受援計画に基づいた訓練の実施。 					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		217	16	351	129		
財源内訳	一般財源	217	16	351	129		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 緊急消防援助隊は、消防組織法により法制化された日本の制度である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 緊急消防援助隊は、消防組織法により法制化された日本の制度である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 大規模災害の発生が危惧されている昨今、十分に備える必要のある制度である。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 緊急消防援助隊に関わる経費は、国が負担する。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 発生予測不能な大規模災害に対し整備した計画が、対応できるよう引き続き整備、見直等を継続行く事は、重要である。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	消防本部 消防署		
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり		
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	消防・救急活動事業(No.52)		
予算等事業名	救急救助活動経費				
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。				
内容	・救急救助業務の充実に向けた検討				
根拠法令・条例等	消防組織法 消防法				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	円滑な救急救助活動を実施するため、消耗品(酸素、医薬材料)などの経常経費が必要と思われる。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	住民が期待する災害対応をするため、最小限の予算にて運営をしているため、効率化は困難と思われる。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 救急救助活動は、町民の生命、身体を守るために最小の経費で最大の効果を図っている。	

総合評価

実績	・救急救命士病院実習(就業前・就業後)を実施し確かな救急処置等の知識、技術の向上。 ・継続的な災害対応訓練等の実施。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進めます。				
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		4,942	4,498	5,900	5,060		
財源内訳	一般財源	4,942	4,498	5,900	5,060		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 災害対応や被害軽減、救急需要に対応するためには公費投入が妥当と考える。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 災害対応や被害軽減、救急需要に対応するためには公費投入が妥当と考える。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 複雑多様化する救急、消防、救助活動に適切に対処している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 資機材や医薬品の管理を適切に行い、最小限の予算内で対応できている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 適切な活動と円滑な事業の推進が図られている。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		<small>担当部課等名</small>	消防本部 消防署
<small>基本構想</small>	交通環境と防災対策の向上	<small>重点的方針</small>	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり
<small>分野別方針</small>	環境、防災	<small>実施計画事業</small>	消防・救急活動事業(No.52)
<small>予算等事業名</small>	警防活動経費		
<small>目的</small>	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。		
<small>内容</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・気象観測装置を更新し、正確な気象情報を収集する(運用) ・消防訓練施設の新規整備に向けた検討 ・旅客交通機関等との連携強化に向けた調整(協定等・計画案策定) ・消防部隊運用計画の作成(策定・検証・修正) 		
<small>根拠法令・条例等</small>	—		
<small>体制</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施 <input type="checkbox"/> 一部委託あり <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他		

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
<small>②、③に対する理由</small>	消防訓練施設は場所の選定に苦慮しており、予算化が図れない状況にある。		

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
<small>理由</small>	消防力を維持するのに必要で最小限の経費です。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
<small>理由</small>	災害から住民生活の安心、安全を確保のため効率化がなされている。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	限られた消防力を最大限に発揮し町民の生命、身体、財産を火災等の災害から守っている。	

総合評価

<small>実績</small>	・住民による初期消火のため街頭消火器24本を更新整備した。		
<small>中間評価との相違点</small>			
<small>事業指標(数値指標)</small>	街頭消火器の更新整備		
<small>中期(29年度)目標値</small>	24	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
	消防活動に必要な施設や設備の保守、維持管理を充実し災害に備える。		
<small>実績値</small>	平成28年度 89	平成29年度 24	平成30年度

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,432	1,848	573	323		
財源内訳	一般財源	3,432	1,848	573	323		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 住民の生命、身体、財産を火災等の災害から守るために必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町により管理されなければ人員及び施設、設備の維持ができない。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 計画的な維持管理の結果、住民サービス向上が図られ安心、安全に貢献している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 経費の節減を心がけ質の高い消防サービスの提供に努めている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 町民生活の安全、安心を確保するうえで適切に事業が行われている。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	消防本部 消防課・消防署	
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり	
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	消防・救急活動事業(No.52)	
予算等事業名	消防車両・救急車両・分団車両更新事業			
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・消防車両(消防署)更新事業(ポンプ車更新整備) ・救急自動車更新事業(仕様検討) ・消防車両(分団)更新事業 			
根拠法令 ・条例等				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由	車両更新整備を計画しているが、当初計画より車両の更新が遅れている。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	現在の消防力を維持するにあたり、削減は困難である。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	現在の消防力を維持するため、消防車両の更新は不可欠であり、今後も消防力の充実強化が必要である。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	今後も長期的視野のもと、計画的に車両更新が必要である。	

総合評価

実績	消防ポンプ自動車(CD-I型)の更新を行った。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	各種			
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度の消防ポンプ自動車更新に向けて、仕様の検討を行った。
	1	1		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,975	3,478	36,828	36,828		
財源内訳	一般財源	3,975	3,478	8,528	8,528		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他			28,300	28,300		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 消防行政は市町村の責務であり、公費を投入して実施することが妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 消防行政は市町村の責務であり、町が主体となり消防力を維持していく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 車両及び資機材の性能が向上しており、消防力の強化につながった。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 旧車両から引き続き使用可能な資機材を継続して使用することにより、予算の効率化を図った。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 消防力の充実強化のためには、今後も計画的に車両を更新していく必要がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	消防本部 消防課		
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり		
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	消防・救急活動事業(No.52)		
予算等事業名	分団施設維持管理・整備事業				
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。				
内容	・消防団活動拠点の整備拡充を図る(第2、第4分団整備検討)				
根拠法令・条例等					
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	維持管理経費は必要最小限です。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	維持管理経費は必要最小限に留めているが、詰所の再配置や再整備で活動拠点の拡充を図る。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 老朽化している施設の更新を再配置計画に沿って検討し、維持管理経費は引き続き抑制を図る。	

総合評価

実績	第2、第4分団の詰所について整備検討を実施				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	地域の防災力				
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	施設や設備を充実し、人的対応力の向上により防災力が向上する。	
	-	-			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		906	729	907	845		
財源内訳	一般財源	906	729	907	845		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町が設置している組織である消防団の活動拠点であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 消防団は町が設置している組織であるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 設備維持のため十分な成果が上がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 維持管理に必要最低限の費用で成果を上げている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 老朽化している施設の再整備を検討し引き続き事業を推進する。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	消防本部 消防課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	消防・救急活動事業(No.52)				
予算等事業名	消防団体制強化・再整備事業							
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある消防団づくりに向けた調整 機能別消防団員制度の検討(要綱案・条例案検討) 							
根拠法令・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		円滑な活動のため経費の削減は困難と考えます。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		消防団と検討と協議を継続していく。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 新基準活動服や防火衣、安全装備品、機能別部隊用の資機材等の整備を図り、長期的展望により事業の推進を図る。				

総合評価

実績	団幹部による会議を年8回開催し団運営や各種訓練の検討を実施しました。 防火衣、安全装備(ケブラー手袋、ゴーグル等)の整備しました。 「かながわ消防団員応援の店」登録制度に伴い、全分団員に「消防団員・家族カード」を配布しました。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	団幹部会議回数				
中期(29年度)目標値	24			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	消防団員の被服や安全装備の更新と補充や、福利厚生について検討して団活動を充実する。	
	8	8			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,325	1,247	1,346	1,343		
財源内訳	一般財源	663	175	674	672		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	662	173	672	671		
	その他	0	899	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 消防団の装備を充実することは安全・安心まちづくり必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 消防団は町が設置している組織であるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 装備充実により安全性を確保することは魅力ある消防団に必要であるが、入団促進の成果は十分ではない。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 県補助金交付要領に準じて適切に実施している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 消防団の積極的な活動を持続するため、引き続き事業を推進する。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	消防本部 消防課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	消防・救急活動事業(No.52)				
予算等事業名	1市2町高機能消防指令センター整備・運用事業							
目的	消防・救急救助活動業務の高度化に伴い、円滑な活動と事業の充実を図り、安全・安心の町づくりを進める。							
内容	・消防指令業務の共同運用							
根拠法令・条例等	「1市2町消防指令業務の共同運用等検討委員会設置要綱」 「平塚市、大磯町及び二宮町消防通信指令事務協議会設置に関する協議書」							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	共同整備は経費の削減に繋がっているが、関係市町により協議して維持管理経費の抑制を図る。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	共同指令センターの運用で施設及び職員の有効活用について試行を計画している。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 平成29年4月より指令業務の共同運用が開始され、共同指令センターが効率的かつ効果に運用されるように関係市町で協議し推進する。	

総合評価

実績	・平成29年4月1日から指令業務の共同運用を開始した。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	会議回数		
中期(29年度)目標値	9		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	・協議会の開催数。 ・平成29年度以降は年2回の開催とした。
	5	5	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		102,606	87,660	10,183	9,215		
財源内訳	一般財源	102,606	87,660	10,183	9,215		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町が設置する組織に関する業務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 同 上	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 指令台システムによる指令業務を共同運用することで効率的な運用が図られている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 共同運用により費用負担を軽減することができている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 指令業務の共同運用により消防相互の応援体制の強化が図られた。また、最新式の指令台の導入によって、現場到着時間の短縮に期待できる。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	消防本部 消防課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的マネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	自治体経営		実施計画事業	公有財産管理運営事業(No.89)				
予算等事業名	消防庁舎維持管理経費							
目的	公共施設の適切かつ効果的な管理と再配置、及び、行財政運営の効率化による経費の重点配分。							
内容	・施設運営と管理に係る経費							
根拠法令・条例等	建築物の維持管理に関する各種法令							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		庁舎環境維持のため必要最小限です。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		これ以上の効率化は環境維持が図れない。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 庁舎竣工から経過年数が経ち、外壁塗装や設備等に不具合があることから再配置計画にそって対策が必要です。							

総合評価

実績	非常用発電機蓄電池交換修繕、トイレ・エアコンの修繕、高圧引込線工事などの経過年数に応じた修繕と、仮眠室に衝立を設置して職場環境の改善を図った。					
中間評価との相違点						
事業指標(数値指標)	消防委員会開催回数					
中期(29年度)目標値	3			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	消防庁舎を快適に執務できるよう消防委員会などの改善意見を取り入れて、保守点検や修繕等を実施する。		
	1	1				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		5,420	5,275	6,769	6,284		
財源内訳	一般財源	5,420	5,275				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 定期的な設備点検を定期的に行うことと設備修繕は、施設の長寿命化に必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 消防庁舎は町施設であるため必要である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 消防職員委員会からの要望や必要最低限度の修繕にて職場環境の維持向上が図られている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 職員で定期的な清掃を行っている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 公共施設再配置の計画に合わせて、消防庁舎の修繕や改修を行う。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	消防本部 消防課
基本構想	戦略的行政運営	重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	公有財産管理運営事業(No.89)
予算等事業名	消防広域化への取組み		
目的	広域的な行政施策や取組みを必要とする行政課題等の情報交換及び連絡調整を図り、広域行政を推進する。		
内容	・平塚市及び大磯町との検討(準備)		
根拠法令 ・条例等	—		
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか	
<input type="checkbox"/>	① 検討できる
<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理 由	継続して諸課題を協議検討する必要がある。

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか	
<input type="checkbox"/>	① 検討できる
<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理 由	経費は発生していないので削減は困難である。

中間 評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	消防の広域化で災害への機能強化が図られるよう1市2町で検討を進めている。	

総合評価

実績	1市2町消防の広域化検討委員会報告書が出来上がり、各市町の首長に経過報告を実施した。		
中間評価 との 相違点			
事業指標(数値指標)	会議回数		
中期(29年度)目標値	6		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度 1	平成29年度 2	・検討委員会は、平成29～30の各年度において作業方針の確認と報告の2回。首長会議は2箇年で1回を計上。

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0	0	0		
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町民の安心・安全のため、多様化する災害へ対応できる消防力の整備が必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町が設置する組織であるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	C
	【説明】 消防主体の検討だけでは総合的な判断に欠けている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	C
	【説明】 国、県の施策による財政支援が必要と考える。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	C
	【説明】	
	平成30年度、国から新たな指針が示され新たな枠組みで今後の消防体制を議論する。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 総務省消防庁が「消防の広域化に関する基本方針」の改正し、広域化の推進期限が延長になり再検討が必要になった。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 県の消防広域化推進計画の改定により、新たに協議を行う。	